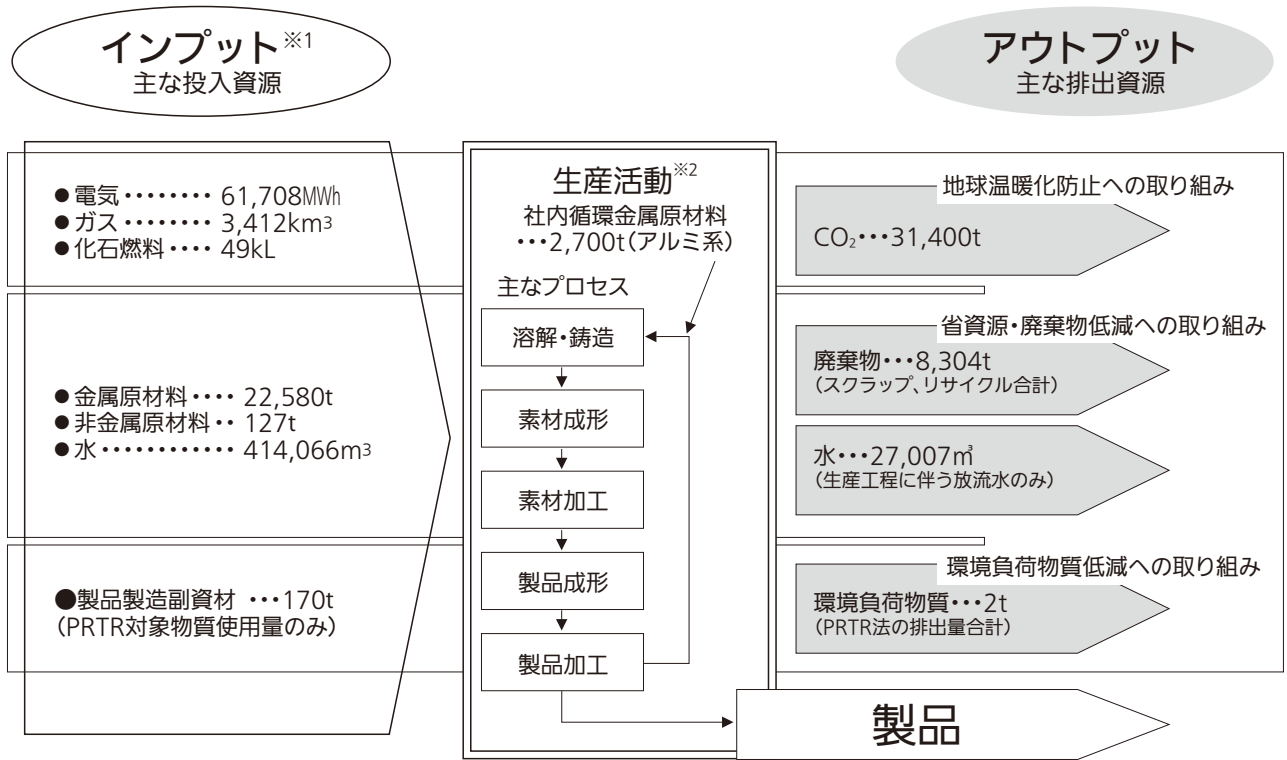


事業活動のインプット・アウトプット

事業活動としてモノづくりを行う上で、資源の利用は欠かせません。そこでインプット・アウトプットとして定量的に把握することは環境活動にとって重要な情報の1つです。

ここでは、インプット・アウトプット双方の情報をもとに、3つの大きな観点の取り組みについて説明します。



※1 インプット 大豊工業㈱単体のデータ。ただし購入部品は除く。

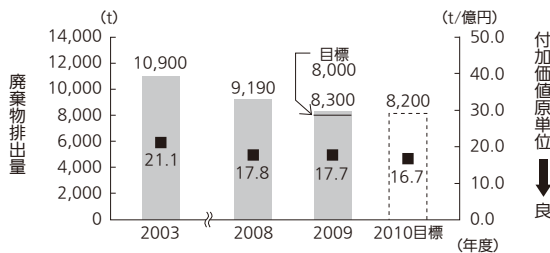
※2 生産活動 工場の生産を意図し、設計、物流は対象外。

省資源・廃棄物低減

資源の有効利用のため、当社では廃棄物低減を推進しています。近年では、埋立廃棄物のリサイクル化だけでなく、有価物(金属スクラップ)の低減に取り組んでいます。

2009年度は、減産を考慮した高い目標値を達成することはできませんでしたが、着実に改善しています。

■ 廃棄物排出量・付加価値原単位



■ 取り組み事例

■ 排出量の見える化

当社の製品を作る上で、素材から一貫して生産しているため、会社全体の廃棄物量に大きな影響を与えています。「環境」という切り口から、生産のムダを明らかにし、工場の活動に役立てています。

⇒P13 細谷工場の取り組み

■ 2009年度の活動結果と2010年度の目標

項目	実施内容(○・・・成果大)	2010年度目標	重点実施項目
1. 発生源での低減活動	・スクラップ排出量の見える化(継続中) ・各工場の不良ワースト3品目低減活動の推進(継続中)	廃棄物排出量 8,200t/年 以下 廃棄物原単位 16.7t/億円 以下	生産環境 ・工程内不良低減 ・社内再利用